

リスクと機会の認識と対応

経営環境の変化と当社の強みを踏まえ、戦略を策定

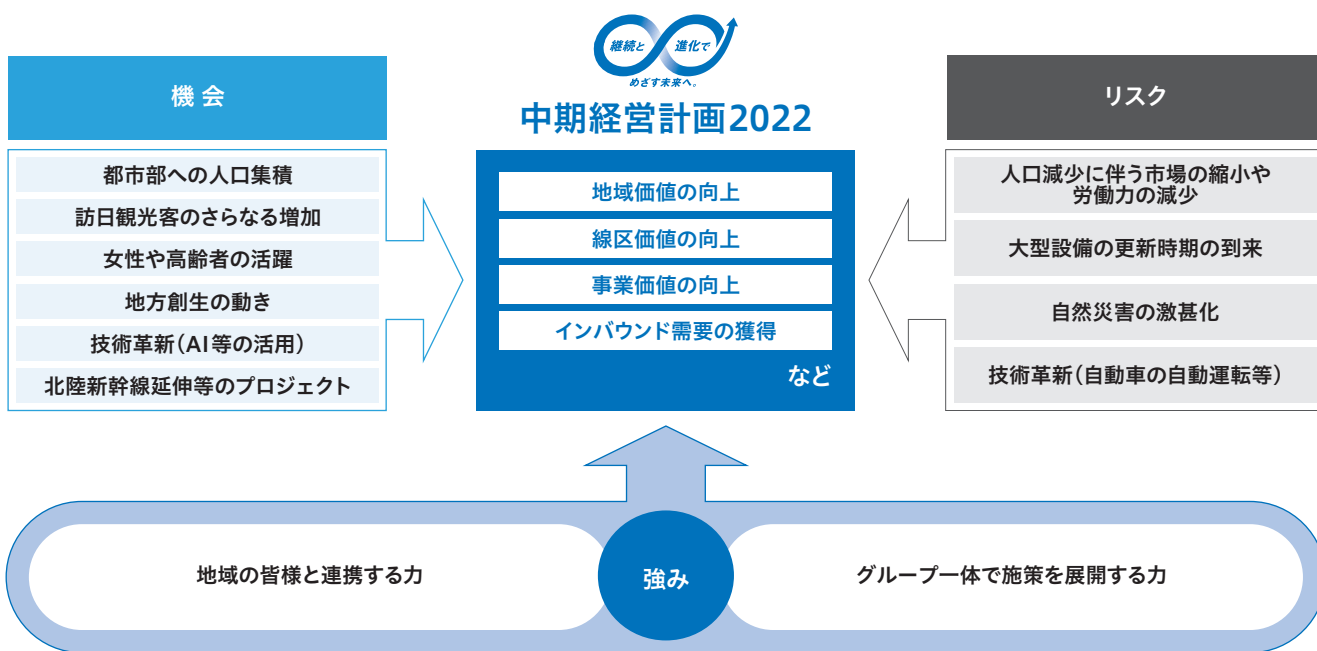
今中期経営計画では、内外の経営環境の変化をリスクと機会の観点から適切に把握し、当社の強みを踏まえ、戦略を策定しています。

当社エリアには、今後、北陸新幹線延伸やなにわ筋線、大規模拠点駅開発の3大プロジェクト(大阪・三ノ宮・広島)など、多くの成長機会があり、それらのチャンスを最大限活かすべく、中長期的な視点で先手を打っていきます。また、観光資源が豊富であり、かつアジアから近いといったエリア特性を活かすことで、インバウンドをはじめとする観光需要も取り込み、エリア活性化につなげていきます。

一方、リスクとして、人口減や自然災害の激甚化、大型設備の老朽化など、内外の厳しい環境を認識し、事業の持続可能性を確保する観点から、新たな技術などを活かした生産性向上、防災・減災対策、および大型設備の更新を機とした機能強化にも積極的に取り組んでいきます。

「人口減少に伴う市場の縮小や労働力の減少」や「自然災害の激甚化」を含むリスク情報について、有価証券報告書にて開示しています。

https://www.westjr.co.jp/company/ir/library/securities-report/pdf/report32_04.pdf



見通しに関する注意事項

このレポートでは、JR西日本の事業、産業および世界の資本市場についてのJR西日本の現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明には、さまざまなリスクや不確かさがつきまとっています。通常、このような将来への展望に関する表明には、「かもしれない」、「でしょう」、「予定する」、「予想する」、「見積もる」、「計画する」、又はこれらに類似する、将来のことを表現する言葉が用いられています。

これらの表明は、将来への予定について審議し、方策を確認し、運営実績やJR西日本の財務状況についての予想を含み、又はその他の将来の展望について述べています。

既に知られた若しくはいまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、かかる将来の展望に対する表明に含まれる事柄と大いに異なる現実の結果を引き起こさないとも限りません。JR西日本は、この将来の展望に対する表明に示された予想が結果的に正しいと約束することはできません。JR西日本の実際の結果は、これら展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。

実際の結果を予想と大いに異なるものとする重要なリスクおよび要因に

は、以下の項目が含まれますが、それに限られるわけではありません。

- ・財産若しくは人身の損害に関する費用、責任、収入減、若しくは悪い評判
- ・経済の悪化、デフレおよび人口の減少
- ・日本の法律、規則および政府の方針の当社にとって不利益となる変更
- ・旅客鉄道会社および航空会社等の競合企業が採用するサービスの改善、価格の引き下げおよびその他の戦略
- ・地震およびその他の自然災害のリスクおよび情報通信システムの不具合による、鉄道その他業務運営の阻害

このレポートに掲げられたすべての将来の展望に関する表明は、JR西日本に利用可能な情報に基づいて2019年8月31日現在においてなされたものであり、JR西日本は、将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

なお、2005年4月25日に発生させた福知山線列車事故に関する今後の補償費用等については、現時点で金額等を合理的に見積もることが困難なことから、本レポートの見通しには含まれておりません。